

## オーストリア病理学会参加記

国際医療福祉大学医学部 成田病院 病理診断科

小無田 美菜

この度、日本病理学会とオーストリア病理学会の交流事業の一環として、オーストリア病理学会からの招聘で、2023年3月24日（金）-25日（土）に、オーストリアのウィーンで行われた、オーストリア病理学会に参加してきましたのでここにご報告いたします。

日本からは、筑波大学 松原大祐先生、滋賀医科大学 九嶋亮治先生、倉敷中央病院 能登原憲司先生、そして私の4人が参加しました。

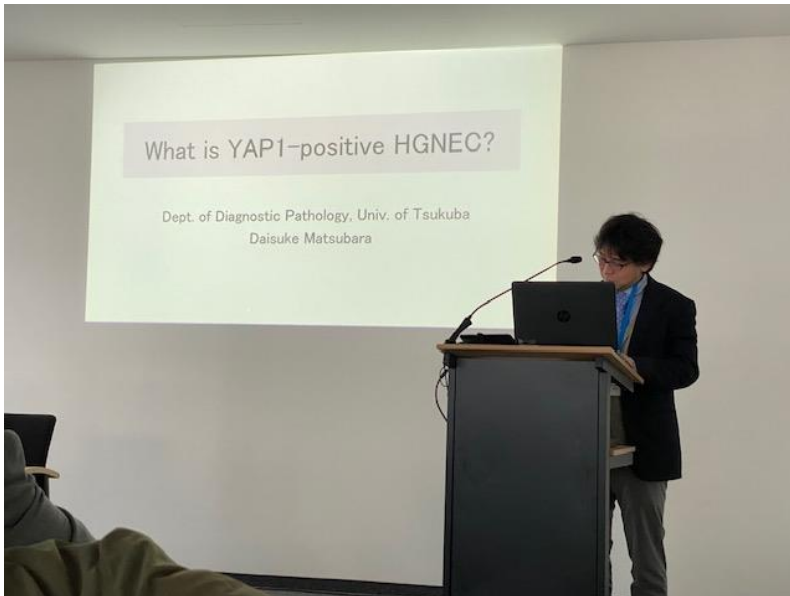


写真 1

まずトップバッターとして、松原大祐先生がオーストリア病理学会の前日に行われたオーストリア病理学会・IAP 主催の肺病理ワーキンググループミーティングにおいて、“What is YAP1-positive HGNEC?”のタイトルで35分の講演をされました（写真1）。

ストーリー性のあるプレゼンテーションで、門外漢の私にも大変わかりやすいご発

表で、活発な質疑応答がなされました。

続いてオーストリア病理学会と日本病理学会とのジョイントセッションにおいて、九嶋 亮治先生が、“Gastric dysplasia/adenoma in Helicobacter pylori naïve patients”、能登原 憲司先生が、“Histological diagnosis of autoimmune pancreatitis; it’s not only a matter of IgG4. ” そして私が“Tumour heterogeneity of primary liver cancers and its clinical relevance.” のタイトルで、各々20分の講演を行いました。

九嶋 亮治先生は、ドイツのデュッセルドルフ大学へ留学されていたこともあり、流ちょうなドイツ語で笑いを取りながら、プレゼンテーションを始められ、聴衆の心はわしづかみ状態でした（写真2）。

能登原先生も、留学経験はアメリカだったにも関わらず、流ちょうなドイツ語でプレゼンを開始され(写真3)、英語のプレゼン準備しかしていなかった自分の未熟さを痛感しました。



写真 2



写真 3

医として、誇らしく、とても嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

九嶋先生、能登原先生のプレゼンは、診断のポイントが明確で、かつプレゼンで映し出される美しい病理写真の数々に、会場から、“schöne Fotos (綺麗な写真だわ～)”の声が聞かれました。オーストリアの病理医の先生方が、日本における病理診断の質の高さを再認識され、興味深く拝聴されている様子を拝見し、同じ日本人病理



写真 4

れ合う事ができ、良い思い出となりました（写真 4）。

松原先生、九嶋先生、能登原先生のお名前は、学会や論文等で存じ上げていましたが、直接お会いするのははじめてでしたが、なんだか昔から知り合いだったかのようにとても仲良くさせて頂き、仕事だけでなく色んなお話しができ、大変楽しい時間を過ごす事ができ、とても充実した学会参加となりました。



写真 5

国際交流は、学術だけにとどまらず、能登原先生と私は、土曜日の朝に行われた学会主催のマラソン大会にも参加し、オーストリア病理学会 President の Dr. Alexander Nader の導きで、近道なのかよくわからない坂道を走り、無事に完走する事ができました。足がつりそうになりましたが、証明書もいただき、現地オーストリアの病理医の先生方と触

また、オーストリア滞在中には、Graz 大学の Luka Brcic 先生に大変お世話になりました。Luka 先生は、クロアチアのご出身ですが、オーストリアに移住し Graz 大学で肺専門の病理医として診断、研究、教育に携わられています。秋期病理学会にも参加されるご予定なので、再会を楽しみにしています。

ここ数年、学会もオンライン開催が主体でしたが、今回現地へ赴き、色んな方々と直接お話しをして親交を深める事ができ、やはり face to face のコミュニケーションに勝るものはないな、と感じました。このような機会を与えて頂きました日本病理学会そしてオーストリア病理学会の関係各所の皆様に心より御礼を申し上げます。